



発行所  
日刊自動車新聞社  
東京都港区芝大門1丁目10番11号  
開設日 1953年(昭和28年)4月  
電話 東京(03)5777-2351代表  
©日刊自動車新聞社2015

Jidosha  
Next New Nikkan

7月9日  
(木曜日)

日刊自動車新聞 ウェブサイト  
<http://www.njd.jp>

## 日野本社工場跡地 活用計画固まる

# FCVなどで水素社会を形に

## 研究所や進化版 オートモール ずらり最新施設

日野自動車の本社工場移転後の跡地(東京都日野市)が2020年の東京オリンピックを成功に導くための拠点として活用されることが固まった。燃料電池車(FCV)を核とした水素社会構築の最重要都市拠点(位置づけ、新しいエネルギーを活用した住宅やモビリティ、商業施設などを建設する。晴海地区(東京都中央区)で予定しているプロジェクトとの間でビジネス・ネットワークを構築するのをはじめ、アジアを中心とした世界と双方向につながる機能を併設するなど、日本経済再興に向けたビジネスの集約拠点として運営していく計画だ。

## 五輪の成功後押し

「超党派議員による国家プロジェクト政策会」が主体となり、国土交通省や東京都、トヨタグループをはじめとする民間企業が協力する大

野田佳彦氏、維新の松野頼久氏らが参画。これまでに東北への復興特区制度や自動車新

野田佳彦氏、維新の松野頼久氏らが参画。これまでに東北への復興特区制度や自動車新  
なプロジェクトについて検討してきた。  
今回のプロジェクトは、こうした活動の一環。東京オリンピックを契機に、世界一の経済・生活・交易の場を実現するとともに、その後の経済や生態系の維持・成長の世界標準化を目指す実践的な形として提案する。  
本社工場の敷地面積は約43万平方メートル。このうち本社用地を除く約30万平方メートルを再開発する。日野の研究開発施設や企業文化施設のほか、トヨタグループの教育研修施設(国際アジア・パシフィックセンター(仮称))、起業家や投資家が集結する国際自動車交流会館、宿泊施設などを建設する。  
都内最大級となる商業施設には、既存のオートモールを進化させた「オート・エンターテインメントモール」をはじめ、イオングループによる小売の店舗や飲食店舗、娯楽施設を設置。医療、介護、子育て施設も併設する。  
戸建てと集合のスマート住宅も建設、販売。事業所用、個人宅用をそれぞれのエネルギーマネジメントシステムを導入

入し、FCVや電気自動車に  
対心するエコ・ステーション  
事業、次世代車を核とした販  
売店舗と合わせ、サービスイ  
ンフラを伴った環境都市とし  
て開発する。  
東京都がオリンピックの輸  
送手段として導入するFCV  
バスを都心と日野間でも運行  
することで、ネットワーク化  
するとともに技術力や取り組  
みを世界に発信していく。

(世界に向けて、オリンピック・パラリンピック事業 成功への理解のために)

Nikkan Jidosha Shinbun (Daily Automobile Industry Newspaper)  
July 9, 2015

**Plan to use the Head Office and Factory site of Hino Motors almost decided  
Putting a town using hydrogen energy into a reality by the use of fuel cell vehicles (FCVs)  
R&D Facility, Advanced Auto Mall and other Newest Facilities**

It has been determined that the site of Hino Motors in Hino city, Tokyo after its factory is to be transferred will be used as the base to lead the Tokyo Olympics in 2020 a success. The site will be considered as the most important urban center to build a town employing hydrogen energy with the use of fuel cell vehicles (FCVs). Housing, a transportation system, and commercial complexes will be built utilizing the new energy.

It is planned to make it an intensive business center to reactivate Japan's economy. For this, a business network will be established with the project due to be developed in the Harumi district in Chuo city, Tokyo. It will also have a function to interactively connect with Asia and the world.

**Pushing forward the Success of the Olympic Games**

National Project Policy Proposal Meeting by MPs of different parties is taking a leading role, and the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Tokyo Metropolitan government, Toyota Group and other corporations are cooperating with this large-scale project.

The Meeting has Nobuo Ishihara, former vice-chief cabinet secretary as advisor, and members include Toshiaki Endo, minister in charge of the Olympics, Ichiro Aisawa, LDP, Yoshihiko Noda (former Prime Minister), JDP, Yorihsa Matsuno, Innovation Party. The Meeting has submitted proposals on the establishment of Rehabilitation Special Zone in the Tohoku district, and Automobile-Related New Industry Special Zone to the government, along with practical project planning.

The project of developing the former Hino Motors' site is a part of its activities. The Meeting hopes to put into practice a world-class center of economic, living and trading activities taking the opportunity of the 2020 Olympics. It further aims to make it a standard model for maintaining and developing the economy and ecological environment.

The site area is 430,000 sq. meters wide, and 300,000 sq. meters of which will be applied for the project. In the redevelopment site, Hino Motors' R&D facility, corporate cultural facility, Toyota Groups education/training facility "Asia/Pacific International Center" (provisional title), International Automobile Center for entrepreneurs and investors, and a boarding facility will be built.

The proposed commercial complex to be the largest in scale in Tokyo will house Auto-Entertainment Mall, advanced style of the existing auto-malls, retail shops, restaurants, amusement centers under the Aeon Group, and medical, elders' nursing care and child care facilities.

For housing, smart individual houses and smart condominiums will be built and sold. The site will be developed as an ecological town with service infrastructure. Energy management systems will be introduced for private houses and offices respectively, Eco Stations to supply FCVs and electric vehicles (EVs), motor-car shops selling next-generation vehicles as main products,

The Tokyo Metropolitan government is going to introduce Fuel Cell Buses for transportation during the Olympics, and bus service routes using this bus will be developed to connect Hino and City Center. The technology and transportation system used for the project will be made open to the world.

\*\*\*\*\*

2015年（平成27年）7月9日（木曜日）  
日刊自動車新聞 1面

#### **日野自動車本社工場跡地 活用計画固まる**

##### **FCVなどで水素社会を形に——研究所や進化版オートモール ずらり最新施設**

日野自動車の本社工場移転後の跡地（東京都日野市）が2020年の東京オリンピックを成功に導くための拠点として活用されることが固まった。燃料電池車（FCV）を核とした水素社会構築の最重要都市拠点と位置づけ、新しいエネルギーを活用した住宅やモビリティ、商業施設などを建設する。晴海地区（東京都中央区）で予定しているプロジェクトとの間でビジネスネットワークを構築するのをはじめ、アジアを中心とした世界と双方向につながる機能を併設するなど、日本経済再興に向けたビジネスの集約拠点として運営していく計画だ。

#### **五輪の成功後押し**

「超党派議員による国家プロジェクト政策会合」が主体となり、国土交通省や東京都、トヨタグループをはじめとする民間企業が協力する大型プロジェクトとして推進する。同会合は、石原信雄元官房副長官が顧問を務め、遠藤利明オリンピック担当相や自民党の逢沢一郎氏、民主党の野田佳彦氏、維新の松野頼久氏らが参画。これまでに東北での復興特区制度や自動車新産業特区づくりについて政府へ提言するとともに、実践的なプロジェクトについて検討してきた。

今回のプロジェクトは、こうした活動の一環。東京オリンピックを契機に、世界一の経済・生活・交易の場を実現するとともに、その後の経済や生態系の維持・成長の世界標準化を目指す実践的な形として提案する。

本社工場の敷地面積は約43万平方メートル。このうち本社用地を除く約30万平方メートルを再開発する。日野の研究開発施設や企業文化施設のほか、トヨタグループの教育研修施設「国際アジア・パシフィックセンター（仮称）」、起業家や投資家が集結する国際自動車交流会館、宿泊施設などを建設する。

都内最大級となる商業施設には、既存のオートモールを進化させた「オートエンターテインメントモール」をはじめ、イオングループによる小売り店舗や飲食店舗、娯楽施設を設置。医療、介護、子育て施設も併設する。

戸建てと集合のスマート住宅も建設、販売。事業所用、個人宅用それぞれのエネルギーマネジメントシステムを導入し、FCVや電気自動車に対応するエコステーション事業、次世代車を核とした販売店舗と合わせ、サービスインフラを伴った環境都市として開発する。

東京都がオリンピックの輸送手段として導入するFCバスを都心と日野間でも運行することで、ネットワーク化するとともに技術力や取り組みを世界に発信していく。